

事業者排出量削減報告書

(宛先) 京都府知事		令和5年5月30日					
報告者の住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） 〒612-8379 京都市伏見区南寝小屋町91番地		報告者の氏名（法人にあっては、名称及び代表者名） 京都有機質資源株式会社 代表取締役 安田 暁彦					
主たる業種	産業廃棄物中間処理業				細分類番号	8 8 2 2	
事業者の区分	京都府地球温暖化対策条例施行規則		<input checked="" type="checkbox"/> 第12条第1項第1号 <input type="checkbox"/> 第12条第1項第2号又は第3号 <input type="checkbox"/> 第12条第1項第4号				
計画期間	令和2年4月から令和5年3月まで						
基本方針	A重油の代替燃料として廃食油の量を増やす。LED導入や古くなったモーターを高効率モーターに取り換えることにより、電気使用量の削減に取り組む。						
計画を推進するための体制	LED、高効率モーター入れ替えの予算案などの策定						
温室効果ガスの排出の量	温室効果ガスの排出の量	基準年度 (29～1)年度	第1年度 (2)年度	第2年度 (3)年度	第3年度 (4)年度	増減率	
	事業活動に伴う排出の量	5,467.7 トン	4,870.9 トン	4,915.9 トン	4,646.3 トン	-12.0 パーセント	
	評価の対象となる排出の量	5,672.1 トン	4,870.9 トン	4,915.9 トン	4,646.3 トン	-15.2 パーセント	
	実績に対する自己評価	3年度は2年度と比べ処理量が増えたことでA重油の使用量は増えたが、廃油の割合を増やすことができたことで、原料処理量に対するA重油の使用割合を減らすことができた。					
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	事業の用に供する建築物の用途	原単位の指標	基準年度 (1)年度	第1年度 (2)年度	第2年度 (3)年度	第3年度 (4)年度	増減率
	工場	事業活動に伴う排出の量 (原料処理量/10)	2.26	2.31	2.10	2.27	-1.48 パーセント
		事業活動に伴う排出の量 ()					パーセント
	実績に対する自己評価	3年度は2年度と比べ処理量が増えたことでA重油の使用量は増えたが、廃油の割合を増やすことができたことで、原料処理量に対するA重油の使用割合を減らすことができた。					
重点的に実施する取組の実施状況		基準年度 (1)年度	第1年度 (2)年度	第2年度 (3)年度	第3年度 (4)年度	備考	
		100.0 パーセント	100.0 パーセント	100.0 パーセント	105.0 パーセント		
具体的な取組及び措置の内容	(2)年度	LED、高効率モーターの入れ替え。A重油の使用量削減。					
	(3)年度	LED、高効率モーターの入れ替え。A重油の使用量削減。					
	(4)年度	LED、高効率モーターの入れ替え。A重油の使用量削減。					
通勤における自己の自動車等を使用することを控えさせるために実施した措置	措置の内容	近距離通勤者には自転車通勤を推奨しています。					
	上記の措置を実施した結果に対する自己評価	遠距離通勤の作業員については、公共交通機関を使用することが難しい（就業後着替えても工場内の油臭気が残る。）ので、上記以外の措置を取ることが現状では困難なため。					
森林の保全及び整備、再生可能エネルギーの利用その他の地球温暖化対策により削減した量	区分	第1年度 (2)年度	第2年度 (3)年度	第3年度 (4)年度	備考		
	森林の保全及び整備によるもの	0.0 トン	0.0 トン	0.0 トン			
	地域産木材の利用によるもの	0.0 トン	0.0 トン	0.0 トン			
	再生可能エネルギーを利用した電力又は熱の供給によるもの	0.0 トン	0.0 トン	0.0 トン			
	グリーン電力証書等の購入によるもの	0.0 トン	0.0 トン	0.0 トン			
	温室効果ガス排出量の削減又は吸収の量の購入によるもの	0.0 トン	0.0 トン	0.0 トン			
合計	0.0 トン	0.0 トン	0.0 トン				
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	弊社施設内では植物性廃油（てんぷら廃油）を熱媒体として使用し、その後燃料として利用しています。これにより燃料のA重油使用量を削減できています。また、廃油の一部は地域のご協力を頂き、家庭や学校から排出されるてんぷら廃油を有価物として購入し、自社で収集、使用しています。						
特記事項	基準年度を3か年の平均ではなく、1年度を基準年度としている理由は、燃料の使用に大きな影響を与える原料処理量が3か年で見ると、直近の1年度基準にした方が、より正確な数値がでると考えられるので、1年度の基準年度に設定しました。						

注 1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外で自主参加される事業者の方は、レ印の記入は不要です。
 2 「細分類番号」とは、統計法(平成19年法律第53号)第2条第9項に規定する統計基準である日本標準産業分類の細分類番号をいいます。
 3 「基準年度」とは、計画期間の前年度又は計画期間の前の3年度の事業活動に伴う排出の量又は原単位の数値の平均をいいます。
 4 「増減率」とは、基準年度と比較した計画期間の平均の増加又は減少の割合をいいます。
 5 「重点的に実施する取組の実施状況」とは、温室効果ガスの排出の量を削減するために重点的に実施した取組の実施率を地球温暖化対策指針で定める方法により算出して記入し、その算出の根拠となる資料を添付してください。